

平成28年度
庄原市児童生徒科学研究の進め方についての研修会

- 日 時：平成28年5月27日（金）14:00～16:35
- 場 所：庄原市リサイクルプラザ 研修室
- 参加者：庄原市内各小・中学校の教職員26名
- 目 的：科学的な態度や能力を育て、問題解決の方法を習得させる科学研究の進め方について研修し、庄原市内各小・中学校の科学研究を推進する。

【実践発表】「科学研究の進め方について～学校で取り組む科学研究～」

庄原市立口北小学校 教諭 関元 千花子

【特に大切にしたこと】

○テーマの決定

- ・指導者は、自然事象との出会いに際し、児童が不思議に思う気持ちを受けとめるとともに、児童が自分でテーマを決めたという実感や研究の見通しをもつことができるよう助言する。

○組織的な指導

- ・研究の進め方について指導者間で相談しながら指導にあたるとともに、研究における発見等の感動を他学級へも広め、学校全体で研究に取り組む雰囲気を作り出す。



【参加者の感想より】

○職員全体で、児童に科学に対する興味関心をもたせる基盤づくりがされていて、参考になった。

○テーマ設定時の留意点について分かった。特に、児童の「不思議に思う気持ち」を大切にしてテーマを決定させ、目的をはっきりともたせて研究を進めさせたい。

講話・演習「児童生徒が主体的に探究する科学研究の進め方」

講師：広島県立教育センター 教科教育部 指導主事 脇田 崇紀



【講話・演習から】

○科学研究は、「探究の過程」のフルコースであり、広島版「『学びの変革』アクション・プラン」で示されているコンピテンシーの育成に適している。

○児童生徒に探究過程を2時間程度で具体的に体験させ、研究の進め方を捉えさせる。

○過去の優秀作品を評価の視点に基づき評価することにより、研究のよい点に着目でき、指導のポイントが明確になる。

（自主性、創造性、論理性、安全と自然への配慮）

【参加者の感想より】

○具体物を用いて、短時間で実際に探究の過程を体験することを通して、児童生徒に研究の進め方を理解させる指導方法が参考になった。今後の指導において活用したい。

○評価の5つの視点に基づいて研究を進めていくことで、見通しをもって指導できると思った。

○優れた科学研究作品を見ることで、研究の題材や構成が参考になった。